

令和4年度 「ハッピー♥スマイル」 第1回開催報告

【日 時】 令和4年5月15日（日）13時～

【場 所】 浅口市健康福祉センター
ボランティア研修室

【参加者】 保護者6名 子ども2名
救急救命士1名 養護教諭1名
医師1名



1 開 会

2 アレルギー情報提供

○週刊日経メディカル 2022/4/22 より

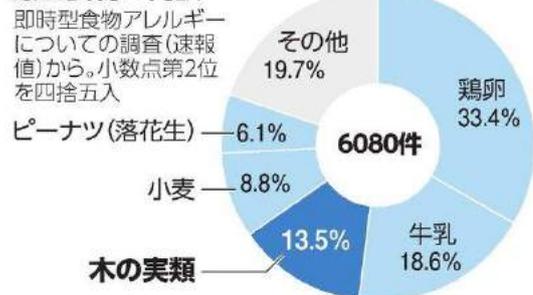
- ・口紅で食物アレルギーに：口紅などの化粧品に含まれる赤色色素（コチニール、カルミンなど）に感作されて食物アレルギーを発症する。化粧品や医薬部外品では表示が求められているが、使用制限はない。診断に至っていない潜在患者の存在が危惧されている。
- ・ラテックス・フルーツ症候群：ラテックス抗原と交差抗原性を有する果物の摂取で即時型のアレルギー症状を生じる。バナナ、アボガド、キウイなどの果物が交差抗原性を有する。果物を避けるだけでなく、ゴム製品との接触を避ける必要がある。
- ・ペットやマダニ咬傷が原因で獣肉アレルギーに。
- ・納豆摂取後の遅発性アレルギーの原因はクラゲ刺傷。

○朝日新聞 DIJITAL 2022/5/1 より

「クルミアレルギーが急増 原因食物「木の実類」が「小麦」超え3位に」

クルミやカシューナッツ、アーモンドなどの「木の実類」で食物アレルギーを起こす人が増えている。これまで、日本人の食物アレルギーの3大原因は鶏卵、牛乳、小麦だった。最新の調査で初めて、木の実類が小麦を抜いた。患者数が増えている原因は不明だが、「消費量が増えていることも背景にあるのではないか」と海老澤元宏先生（相模原病院）は指摘する。

2020年に発生した食物アレルギー原因食物の内訳



○教育ルネッサンス 変わる教育現場（読売新聞 2022/2/8 より）

食物アレルギー 的確な対応を：食物アレルギーへの対応は、個別的な指導と横断的に取り組むことが重要。調布市で女子児童が誤食で亡くなる事故が起きて10年が経過した。国は事故防止のため、対応指針を策定し、自治体に個別の対応計画の作成などを求めている。基本的な対応を大事にしつつ、事故が起きないように二重三重のチェックが必要だ。

3 情報交換

今回は初参加の親子が来られましたので、いろいろと情報交換しました。

4歳の子供さんで卵と乳、ゴマにアレルギーがありアレルギー治療を受けておられましたが、昨年9月ごろより症状が悪化しそれまで食べられた量が食べられなくなったようです。原因はよくわからなかったようです。先生との意思疎通がうまく図れず、現在は病院を変えて、違うアレルギー専門医の指導の下、負荷試験をしながら少量ずつ食べています。

スキンケアもしていますが、ステロイド軟膏やプロトピック軟膏を使用し続けてもよいか不安感が強いようでした。SNSからの情報も気になり迷っているようでした。ステロイド治療は粘り強く、重症度に応じて適切なステロイド軟膏を適切に使用することの必要性をお母さん方の経験をもとにお話ししました。実体験に基づいたお話に勇気づけられたようです。

岡山からのメンバーの子供さんは6年生になり、修学旅行に参加できたと報告して下さいました。治療を開始して一番の目標が達成でき、いい思い出となったようで、みんなで喜びを分かち合いました。

治療に当たっては、何か目標を決めるとそれにむかって頑張ることができるとうわかりました。



今回は、何とか開催できました。次回は、**令和4年7月17日（日）**
浅口市健康福祉センターで開催します。情報交換の予定です。新型コロナウイルス感染症の状況により、中止するかもしれません。事前にホームページでの確認をお願いします。

（浅口医師会 高山晴彦）